

赤十字国際ニュース

2016 年 第 2 号 2016 年 1 月 18 日
(通 巻 第 1150 号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門 1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-3435-8509

E-mail: kokusai@jrc.or.jp <http://www.jrc.or.jp/>

■ ハイチ：手洗いでコレラを予防しよう

日本赤十字社（以下、日赤）は、ハイチ中央県南部でコレラ予防啓発とコレラ発生時の対応チームの育成を支援しています。

■ 村々をめぐり、手洗いの大切さを伝える活動



ロバとともに移動する人

日赤は、中央県南部のサバネットとコンビエという地域で 2014 年 7 月から、コレラ予防のための衛生促進活動を実施しています。これらの地域はインフラが未整備であることが多く、人びとは川の水を料理や洗濯に使い、ロバで移動しています。トイレを使うという概念がない人も多く、道でそのまま用を足している姿もよく目にしました。

衛生促進活動では、経験のある現地看護師が、コミュニティー・ファシリテーターと呼ばれる各村のボランティアに衛生

啓発を訓練。村の人びとに手洗いの大切さや正しい手の洗い方、感染症の恐ろしさなどを、デモンストレーションや寸劇をとおして伝えます。

各村のボランティアを研修するといっても、ロバでしか行くことのできないような悪路、橋のない大きな川や山を越えて何時間もかけて訪問する村もあります。衛生啓発活動の大切さを村長や村人に説明し、ボランティアを募って村人たちに研修を行うのは大変な道のりです。しかし、毎日順番に村々を回り、伝え続けることにより、301 人のコミュニティー・ファシリテーターが研修を終え、1 万 4192 回の家庭訪問を実施しました（2015 年 11 月末現在）。コミュニティー・ファシリテーターたちも徐々に経験を積むことで自信を得、村の人びとに受け入れられるようになり、手洗いのデモンストレーションもスムーズに行えるようになっていきます。



ひょうたんの木の下での啓発イベントに集まる村人たちと盛り上げるコミュニティー・ファシリテーターたち

■ トイレを自分で作ったよ！



コミュニティ・ファシリテーターから衛生啓発を受けた後、村人が協力して自分の家に作ったトイレ

最近、ある村からうれしいニュースが届きました。コミュニティ・ファシリテーターたちの衛生啓発の話を聞き、自分たちで家にトイレを作ったという村が出てきたのです。

ハイチでコレラ衛生促進事業を担当している日赤和歌山医療センターの小笠原看護師は、「学びたくてもその機会が無く、情報すらすぐに入ってこないような集落の住人が、とても楽しんで赤十字のトレーニングに参加している姿や、ボランティアとして成長し、誇りを持って啓発活動をしている姿が印象的です。コミュニティにより差はあるものの、

少しずつですがそれぞれ変化が見られるようになりました。トレーニングを受けたすぐに、自らトイレを設置したことは正直驚きました」と語ります。

■ ハイチ大地震発災から 6 年

ハイチの首都を中心に、人口の 5 分の 1 に当たる約 210 万人が被災し、約 17 万戸の家屋が倒壊、約 21 万 7300 人が死亡するという未曾有の大地震から 1 月 12 日で 6 年が経ちました (UNOCHA)。復興は進み、日赤の支援は 2014 年 12 月末で終了しました。しかし、2010 年 10 月に大流行し、約 70 万人が感染、約 8600 人が死亡するという事態に発展したコレラは、現在もなお発症が続いており、2015 年 1 月 1 日から 12 月 5 日までに 3464 件の感染が報告されました。コレラ予防啓発おとコレラ対応の活動は 2015 年 12 月で終了する予定でしたが、コレラの発生がまだ収まらない現状を受け、2016 年 12 月までの延長を決定しました。



サバネットの小学校で手洗いを生徒たちに伝える小笠原要員（写真中央）

● 赤十字活動へのご支援を受け付けています

<http://www.jrc.or.jp/contribute/support/>

〔お振り込みについての連絡先窓口〕

日本赤十字社組織推進部海外救援金担当 TEL 03-3437-7081 FAX 03-3432-5507

★日赤のさまざまな情報を配信中です！公式アカウントをぜひご登録ください★

Facebook: 日本赤十字社